

## 2025年6月12日 2025年3月期 決算説明会 における質疑事項

### Q. 中計に金利上昇の影響を織り込んでいるか。KPI修正の可能性はどうか。

A. 中計策定時は金利上昇を織り込んでいないが、途中で変更する予定はない。決算資料31ページでは政策金利上昇時の収益シミュレーションを提示しており、足元では変動金利比率の上昇により、貸出金利は想定以上に上昇。政策金利が上昇しなくても、収益は若干上振れる見通し。なお、今後政策金利が上昇した場合、預金利息の増加分と貸出金利の増加分との差は縮小していくと想定している。

### Q. 個人預金の獲得について、どのような方針なのか。

A. 前期は法人預金の増加（約150億円）により預金全体は増加したが、個人預金は大幅減。高金利商品による獲得は控え、小口・粘着性のある預金獲得を重視する。

具体策としては以下を想定

- ・懸賞金付定期預金の頻度を増やし、ボーナス・年金支給時に展開
- ・取引先（電力、私鉄、大手スーパー等）と連携し、ポイント付与型定期預金の導入検討
- ・宝くじ付き定期預金の再導入も選択肢。コストとの兼ね合いから、3年満期など条件を設定し検討

これら施策により、今年度は個人預金の増加を見込む。

### Q. 統合・再編についてのスタンスはどうか。

A. 統合や再編は大きな決断であり、効果もあるが、当行は「顧客メリット」と「企業価値の向上」を基準に提携やアライアンスを推進してきた。今後も同様の方針で新たな提携を模索する。なお、金融環境の変化を踏まえ、統合や再編の可能性も「頭の片隅には置いている」。